

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年2月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691500203
法人名	アルゴライン株式会社
事業所名	ケアホーム田海園
所在地	鹿児島県薩摩川内市城上町9750番地7 (電話) 0996-21-9338
自己評価作成日	令和7年1月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○利用者様一人ひとりの個性や行動等をそれぞれ把握し、安心できる環境づくりとその方に応じた支援に取り組んでいます。
○利用者様の体調不良や普段と違う状態の場合は、利用者様それぞれの主治医に連絡・相談するなどして病気の早期発見に努め、必要時には主治医の指示やご家族様のご希望に沿っての病院受診を支援します。
○感染症対策の基本である手洗いや手指消毒、空気清浄機等の使用で感染症対策が徹底できるように努力しています。
○「つなぐ・つながる・たすけあう」の理念で、ご家族と地域の皆様からも信頼できる施設を目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は中学生の職場体験学習受け入れを再開し、利用者との交流を通して認知症への理解を深めてもらう等、事業所の力を活かした地域貢献に取り組んでいる。
- ・地域行事への参加はコロナ等の感染予防のため見合わせているが、運営推進会議時に地域情報を把握したり、原発事故時の避難についての情報を地域と共有する等、地域の一員としての繋がりを大事にしている。
- ・管理者及び職員は、家族と利用者が良好な関係を継続できるよう、ラインを活用して近況報告や連絡をこまめに行うとともに、家族からも気軽に意見や相談をしてもらえるよう取り組んでいる。
- ・管理者及び職員は、利用者が要望や思いを表出できるよう、職員から声をかけゆっくり話を聞くように努めている。
- ・管理者は、職員の事情を配慮した勤務形態や休憩時間の確保等、無理なく働ける職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念である「つなぐ・つながる・たすけあう」を目につく場所に掲示し管理者と職員は共有することで地域の皆様から頼られる施設を目指している。	理念は玄関に掲示し、職員は各自で確認しケアに繋げており、今後は理念をパンフレットにも掲載予定である。年度末に理念の確認及びケアの振り返りを行う計画である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	運営推進会議に参加していただく自治会長や民生委員より地域の情報を聞くことができている。夜間に自宅へ帰れなくなった地域の方の連絡が当職員よりあり、民生委員に連絡して自宅へ帰れたこともあった。	地域行事への誘いは受けているが、感染予防のため参加は見合わせている。サマーボランティア等の受け入れを再開しており、今年度は職場体験学習を受け入れることができた。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	サマーボランティアの受け入れや職場体験受け入れなどにより認知症への理解を深めていただくなど地域貢献ができるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害発生時の地域での対応を自治会長、民生委員の方々より聞き、施設での対応策を話すことで他の対策等がないかを聞くなどしてサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回会議を実施し、ヒヤリハットを含めた事業所の状況報告と意見交換を行っている。地域情報を得たり、原発事故の避難についての情報共有の機会であり、意見をサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市職員は運営推進会議にも出席してもらっており、書類提出する事前にも出向いたり電話で相談するなどして良好な関係を築いている。	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換及び電話や窓口に出向いて相談する等、日頃から連携を図っている。市や協議会の研修は内容を検討して受講するように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止の指針と委員会を設置し、3ヶ月毎に開催している。日中は施設内の施錠はせず、職員の見守りの中で利用者は生活している。	指針を作成し、委員会を3ヶ月に1回、研修は年3～4回実施している。スピーチロックは気づいた時に管理者や職員間で注意を促し、会議にも取り上げている。日中は玄関の施錠はせず、利用者が外に出て行く場合は職員が同行する等、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や職員会議で学ぶ機会があり、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業や制度を実際に活用されている利用者がおらず、リアルな事例を基にした研修を行いにくいところであるが、制度の理解についての研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約前の施設見学や自宅等訪問で家族の疑問点等について尋ねられたことについても説明して理解・納得を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会の際や電話で家族の意見や希望を聞き、お知らせもするなど可能な限り運営に反映させている。</p>	<p>利用者には、職員から話しかけて要望等を把握するようにしている。家族には、電話やライン・面会時に要望を聞き、その都度対応を検討している。外出希望については、感染予防のため、法人と相談して対応している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議以外でも随時職員の意見や提案を聞く機会があり、管理者が事務局へ伝えることにより意見等を反映させている。</p>	<p>管理者は、月1回の職員会議時に職員の意見を聞く機会を設けており、利用者の食事形態についての要望を厨房に伝えたり、備品購入等、意見を反映させている。個別相談は管理者が受けて対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者会議で代表者に報告する機会があり、向上心がもてるよう整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員への声かけ、研修案内の回覧等でオンライン研修やその他の研修に取り組めるようにしている。資格をもたない職員へはeラーニング受講後に初任者研修資格をとってもらなどもしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>初任者研修等の研修を受ける際に同業者と交流する機会がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には入院先や自宅等で面会し、本人や家族より日頃の様子を聞いたり、疑問点について答えるなどして安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の様子や家族の不安・希望等に耳をかたむけながら、施設での生活に安心感を持っていただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の相談やアセスメント等で心配事や希望等を聞き、可能な限り家族や本人の意向に合う支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は人生の先輩である、との考えを職員はもち、得意なことや生活の知恵などを教えていただくことで職員も学び支えあう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の想いを受け止め、日々の生活の中でのできごとや気づいたことなどを共有することで、共に本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の情報を担当ケアマネや病院の連携室より収集できており、かかりつけ医受診継続も途切れない支援に努めている。馴染みの方や知人は面会に来てくださっている。	家族・知人との面会や電話・手紙での交流を支援している。事業所から家族にラインでこまめな連絡・報告をしたり、動画を送付する等、家族との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格やその日の気分を把握し、トラブル等なく穏やかにかわりあえるよう職員が調整役になって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へ状態確認の連絡を入れたり、相談に応じるなどの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前のアセスメントや家族からの情報により、意向にそえる形になるよう努めている。意思疎通が困難な方には、日頃の情報等から想いを汲み取るようにしている。	リビングで利用者がくつろいでいる時に、職員から話しかけて本人の思いを聞きだすように努めている。困難な場合は、家族や入居前の情報を参考に、本人の表情や日頃の関わりから本人の思いを推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会時に話を聞くなどして、わかる範囲内でこれまでの暮らし方の把握に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活パターンや前日の様子・夜間の状況などを把握することでその日の体調やできそうなことなども把握するよう務めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族や関係医療機関等の意見を聞き、職員からの随時の情報収集などで介護計画を作成している。毎月のモニタリング、6ヵ月ごとのアセスメントで計画の見直しをしているが、状態変化があれば随時計画の見直しをしている。	家族の希望はラインで把握し、往診時のかかりつけ医の情報や職員の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、6ヶ月毎及び状況変化時に現状に合った計画に見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個々の記録に残している。普段と違った言動等があれば記録し、連絡ノートにも記載して職員間で情報を共有、必要時は主治医へ相談するなどして、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に居住する家族、その時に都合の悪い家族へは状況に応じて病院受診同行も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に咲く桜や彼岸花などの開花時期に合わせて外出して気分転換してもらったり、職場体験では地元の中学生達との交流で楽しむことができている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診に加えて、病状によっては家族・主治医と連携して病状に合った医療機関受診を支援している。入所前からのかかりつけ医療機関受診も継続できるような支援をしている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、医療機関による月1~2回の往診を受けている。歯科は必要時に往診を依頼し、週1回訪問看護師の健康チェックを行っている。緊急時・夜間は主治医の指示を受けて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの連携により、週1回の健康観察を実施、必要時は訪問看護師と主治医が直接電話で話して病気の早期発見や治療につなげる支援ができています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には本人に関する情報を医療機関に提供している。病院相談員に入院中の状態確認等の情報交換、家族とも話し合いながら退院支援に務めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を入所時に提示・説明している。重度化が予測される場合は、早い段階で主治医から家族へ説明してもらい、家族とも話し合いながら事業所としてできることを支援している。</p>	<p>契約時に重度化等の場合の対応について指針で説明し、同意書をもっている。重度化の場合、主治医から家族に病状を説明し選択肢を含めた意向を確認している。事業所でできる最大限の支援に取り組んでおり、看取り介護の事例があったが、最近では入院の選択が多くなっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時についての勉強会を行っており、実際の急変時には医師や救急隊の指示に従って行うことができています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を実施している。BCP策定もできており、運営推進会議時には原発災害時にどうするかも自治会長や民生委員とも話し合っている。</p>	<p>年2回火災避難訓練を昼夜想定で実施し、1回消防署の立ち合いを受けている。地域住民への声掛けはしていないが、運営推進会議時に自治会長等と災害対策について意見交換している。事業継続計画（BCP）は年1回見直している。非常用の備蓄は、2日分の水・食料・米・レトルト食品及びカセットコンロを確保しており、普段から井戸水を使用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を理解し、それぞれに応じた対応でプライバシーや尊厳を損なわないように配慮しながら、声かけや対応をしている。	法人で研修を実施し、利用者それぞれに応じた声掛けや対応に努めている。入室時のノック・入浴の同性介助・排泄介助時の羞恥心への配慮等、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の想いを伝えることができる方はその想いを尊重し、伝えることができない方は知り得た情報等で確認しながら本人が決めることができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの生活パターンやその日の体調に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	園行事や外出時は、本人のお気に入りや着やすい衣類等を選んでもらえるような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は施設での提供であるが昼食と夕食は季節に合わせた献立を栄養士が計画し食べてもらっている。それぞれに応じた食事形態は施設でカットして提供している。衛生面もあり食事準備はしてもらっていないが、片付けをしてくださる利用者はある。	昼・夕食は法人の厨房から配食を受けて、事業所で個々に応じた食事形態にして提供しており、利用者も一緒にテーブル拭きをしている。行事食や誕生日の特別おやつ等で食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握しており、その方に合った量を提供している。OS1やジュース、麦茶、白湯など種類を変えて十分な水分摂取ができるような支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方には声かけをし、介助が必要な方にはその方に合わせた方法で介助している。連携の歯科クリニック往診による口腔状態の改善にも行っていく。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々のパターンを把握してトイレ誘導している。随時の水分補給をすすめたり、日中は可能な限りトイレでの排泄を促している。	把握している排泄パターンで声掛け・誘導し、日中はトイレでの排泄を基本に支援しており、必要に応じて2人介助も行っている。オムツから布パンツとパットに改善した事例もある。夜間は、身体状況等でポータブルトイレやオムツを使用する利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方されている緩下剤の内容を理解し、水分を多く摂るようすすめたり、歩ける方は歩いてもらうなどして自然な排便があるよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴拒否が強い方にはうまく誘導できるよう配慮し、その日の入浴に気が進まない方には別日にアプローチするなど個々にそった支援をしている。	週2～3回午後に入浴を支援しているが、希望等で柔軟に対応している。体調等で2人介助や清拭・ベッド上の洗髪等を実施したり、同性介助にも対応している。嫌がる場合は、タイミングを見ての声掛けや日を変えて入ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの好みの場所できつろいでいただいております。日中は居室で休んだり、ソファで過ごすなど利用者に合わせた状態で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や量の変更を全員で共有し、状態観察した結果は主治医へ伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個々の性格等を把握しており、できそうな作業をお願いしている。梅収穫の時期には梅シロップ作りの準備もお願いしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日には介助を要する利用者も外へ出ていただいている。受診同行できない家族へは感染症対策をとりながらの病院受診も支援している。</p>	<p>天候の良い日は近隣の散歩をしている。外出支援は梅見物や受診時のドライブの実施だけであり、今後は年間計画を立てて、感染状況を見ながら外出支援に取り組む予定である。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理ができる利用者は殆どおらず、お金を使う機会はない。物盗られ妄想のある方への配慮も行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族と電話で話したりできている。利用者が書いた手紙は届く住所であるか確認してから投函するなどの支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下の壁にはみんなで作った壁画や写真などを飾って季節感を感じていただいている。各所に置いた空気清浄機等の手入れも定期的に行っており、施設内の湿度が少なくなりすぎないように工夫している。	ホールは空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境に調節し、換気は窓を常時開けて行っている。季節の作品が飾られた室内は車いすの動線を確保してテーブル等が配置され、利用者が思い思いにくつろげるよう数か所のソファが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂には椅子やソファがあり、それぞれお気に入りの場所にくつろいだり、おしゃべりができたりするよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンやタンス等の備品があり、持ち込んだ家具やベッドの位置は入所時に決めていただき、お気に入りの写真を飾ったりテレビを持ち込むなどして、その方らしい居室になるよう工夫している。	居室にはベッドやタンス・エアコンが備えてあり、寝具はリースである。本人は使い慣れた毛布やテレビ・ハンガーラックを持ち込んだり、位牌や写真・置き時計等を身近に置き安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできること・わかることを把握しており、各居室には写真のついた札をかけるなどして自室がわかりやすいようにし、その日の気分合った過ごし方ができるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念である「つなぐ・つながる・たすけあう」を目につく場所に掲示し管理者と職員は共有することで地域の皆様から頼られる施設を目指している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に参加していただく自治会長や民生委員より地域の情報を聞くことができている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	サマーボランティアの受け入れや職場体験受け入れなどにより認知症への理解を深めていただくなど地域貢献ができるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害発生時の地域での対応を自治会長、民生委員の方々より聞き、施設での対応策を話すことで他の対策等がないかを聞くなどしてサービス向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市職員は運営推進会議にも出席してもらっており、書類提出する事前にも出向いたり電話で相談するなどして良好な関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止の指針と委員会を設置し、3ヶ月毎に開催している。日中は施設内の施錠はせず、職員の見守りの中で利用者は生活している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内や職員会議で学ぶ機会があり、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業や制度を実際に活用されている利用者がおらず、リアルな事例を基にした研修を行いにくいところであるが、制度の理解についての研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約前の施設見学や自宅等訪問で家族の疑問点等について尋ねられたことについても説明して理解・納得を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会の際や電話で家族の意見や希望を聞き、お知らせもするなど可能な限り運営に反映させている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員会議以外でも随時職員の意見や提案を聞く機会があり、管理者が事務局へ伝えることにより意見等を反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者会議で代表者に報告する機会があり、向上心がもてるよう整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員への声かけ、研修案内の回覧等でオンライン研修やその他の研修に取り組めるようにしている。資格をもたない職員へはeラーニング受講後に初任者研修資格をとってもらおうなどしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>初任者研修等の研修を受ける際に同業者と交流する機会がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には入院先や自宅等で面会し、本人や家族より日頃の様子を聞いたり、疑問点について答えるなどして安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅時の様子や家族の不安・希望等に耳をかたむけながら、施設での生活に安心感を持っていただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の相談やアセスメント等で心配事や希望等を聞き、可能な限り家族や本人の意向に合う支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様は人生の先輩である、との考えを職員はもち、得意なことや生活の知恵などを教えていただくことで職員も学び支えあう関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の想いを受け止め、日々の生活の中でのできごとや気づいたことなどを共有することで、共に本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の情報を担当ケアマネや病院の連携室より収集できしており、かかりつけ医受診継続も途切れない支援に努めている。馴染みの方や知人は面会に来てくださっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格やその日の気分を把握し、トラブル等なく穏やかにかかわりあえるよう職員が調整役になって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先へ状態確認の連絡を入れたり、相談に応じるなどの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所前のアセスメントや家族からの情報により、意向にそえる形になるよう努めている。意思疎通が困難な方には、日頃の情報等から想いを汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会時に話を聞くなどして、わかる範囲内でこれまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活パターンや前日の様子・夜間の状況などを把握することでその日の体調やできそうなことなども把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族や関係医療機関等の意見を聞き、職員からの随時の情報収集などで介護計画を作成している。毎月のモニタリング、6ヵ月ごとのアセスメントで計画の見直しをしているが、状態変化があれば随時計画の見直しをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個々の記録に残している。普段と違った言動等があれば記録し、連絡ノートにも記載して職員間で情報を共有、必要時は主治医へ相談するなどして、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に居住する家族、その時に都合の悪い家族へは状況に応じて病院受診同行も支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に咲く桜や彼岸花などの開花時期に合わせて外出して気分転換してもらったり、職場体験では地元の中学生達との交流で楽しむことができている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診に加えて、病状によっては家族・主治医と連携して病状に合った医療機関受診を支援している。入所前からのかかりつけ医療機関受診も継続できるような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの連携により、週1回の健康観察を実施、必要時は訪問看護師と主治医が直接電話で話して病気の早期発見や治療につなげる支援ができています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には本人に関する情報を医療機関に提供している。病院相談員に入院中の状態確認等の情報交換、家族とも話し合いながら退院支援に務めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を入所時に提示・説明している。重度化が予測される場合は、早い段階で主治医から家族へ説明してもらい、家族とも話し合いながら事業所としてできることを支援している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時についての勉強会を行っており、実際の急変時には医師や救急隊の指示に従って行うことができています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を実施している。BCP策定もできており、運営推進会議時には原発災害時にどうするかも自治会長や民生委員とも話し合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格を理解し、それぞれに応じた対応でプライバシーや尊厳を損なわないように配慮しながら、声かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の想いを伝えることができる方はその想いを尊重し、伝えることができない方は知り得た情報等で確認しながら本人が決めることができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの生活パターンやその日の体調に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	園行事や外出時は、本人のお気に入りや着やすい衣類等を選んでもらえるような支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は施設での提供であるが昼食と夕食は季節に合わせた献立を栄養士が計画し食べてもらっている。それぞれに応じた食事形態は施設でカットして提供している。衛生面もあり食事準備はしてもらっていないが、片付けをしてくださる利用者はいらる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握しており、その方に合った量を提供している。OS1やジュース、麦茶、白湯など種類を変えて十分な水分摂取ができるような支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方には声かけをし、介助が必要な方にはその方に応じた方法で介助している。連携の歯科クリニック往診による口腔状態の改善にも行っていく。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々のパターンを把握してトイレ誘導している。随時の水分補給をすすめたり、日中は可能な限りトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	処方されている緩下剤の内容を理解し、水分を多く摂るようすすめたり、歩ける方は歩いてもらうなどして自然な排便があるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴拒否が強い方にはうまく誘導できるよう配慮し、その日の入浴に気が進まない方には別日にアプローチするなど個々にそった支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの好みの場所でくつろいでいただいております、日中は居室で休んだり、ソファで過ごすなど利用者に合わせた状態で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や量の変更を全員で共有し、状態観察した結果は主治医へ伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の性格等を把握しており、できそうな作業をお願いしている。梅収穫の時期には梅シロップ作りの準備もお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には介助を要する利用者も外へ出ていただいている。受診同行できない家族へは感染症対策をとりながらの病院受診も支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者は殆どおらず、お金を使う機会はない。物盗られ妄想のある方への配慮も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族と電話で話したりできている。利用者が書いた手紙は届く住所であるか確認してから投函するなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下の壁にはみんなで作った壁画や写真などを飾って季節感を感じていただいている。各所に置いた空気清浄機等の手入れも定期的に行っており、施設内の湿度が少なくなりすぎないように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂には椅子やソファがあり、それぞれお気に入りの場所できつろいだり、おしゃべりができたりするよう工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>エアコンやタンス等の備品があり、持ち込んだ家具やベッドの位置は入所時に決めていただき、お気に入りの写真を飾ったりテレビを持ち込むなどして、その方らしい居室になるよう工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのできること・わかることを把握しており、各居室には写真のついた札をかけるなどして自室がわかりやすいようにし、その日の気分合った過ごし方ができるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない